

科目等履修生希望の方は、以下の注意事項を必ず読んでください。

・本学教職大学院で開設している授業科目のうち、科目等履修生を受け入れている科目を「科目等履修生出願可能科目表」に掲載しています。掲載のない科目は出願できません。

・「科目等履修生出願可能科目表」は、毎年度更新されます。また、科目開講学期、開講曜日・時限、担当教員等は年度途中で変更となる場合がありますので、出願前にもう一度内容をご確認のうえ、出願してください。

・「免許対応校種(教科等)」欄は、一種免許状を専修免許状に上進する際に参照してください。表示してある校種(教科)の一種免許を専修免許に上進する際に必要単位として計上できます。

授業時間割は以下のとおりです。

- 第1時限 8:30~10:10
- 第2時限 10:20~12:00
- 第3時限 12:50~14:30
- 第4時限 14:40~16:20
- 第5時限 16:30~18:10
- 第6時限 18:20~20:00
- 第7時限 20:10~21:50

※科目によって、上記時間割以外の時間に行われることがあります。

整理番号	授業コード	開設プログラムサブプログラム	科目区分	授業科目	クラス番号	単位	担当教員	講義概要	開設	学期	曜日・時限		開講情報		免許法「大学が独自に設定する科目」	備考
									春期	秋期	1~5限	6~7限	講義室等	集中方式	免許対応校種(教科)等	
1	23001120	学校組織マネジメント	高度選択科目	多様性の尊重とこれからの学校づくり	02	2	増田正弘	講義や演習、院生によるプレゼンテーション等を通して個別の人権課題を解決する能力やスキルを修得する。学校教育で配慮すべき視点を含めた人権教育の全体指導計画を立案し、DE&Iの理念を尊重した学校づくりを模索する。		○		月6	遠隔		(幼・小・中・高・養)	
2	23001130	学校組織マネジメント	高度選択科目	学校危機管理の理論と実際	01	2	金子一彦 小寺康裕	事例研究を通して、学校を取り巻く様々な危機への対応策やそれらを生み出さないための組織の在り方について学ぶ。		○	木2		東7号館 (教職大学院棟) 講義室2		(幼・小・中・高・養)	
3	23001150	学校組織マネジメント	高度選択科目	学校評価を生かした学校づくり	01	2	福本みちよ	学校の現状分析の手法としての学校評価に関する知識理解を深め、組織的学校の改善のための学校評価システムを構築する。		○	木6		東7号館 (教職大学院棟) 講義室3		(幼・小・中・高・養)	
4	23001180	学校組織マネジメント	高度選択科目	校内OJTの企画と運営	01	2	浅野あい子	人材開発としての校内OJTの意義ならびに勤務校や実習校の実態を踏まえ、効果的な実施体制や実施内容ならびに運営のあり方を追究し、企画・提案する。		○	木3		東7号館 (教職大学院棟) 講義室3		(幼・小・中・高・養)	
5	23000030	総合教育実践プログラム	専攻必修科目	子ども理解と支援	01	2	浅部航太 米本和弘	特別支援教育および生徒指導に関する理解を深め、実態把握や支援方法について学んだことに基づいて、一人ひとりの実態に応じた支援方法について検討する。		○	月2		大学院アクティブ ラーニングスペース 2		(幼・小・中・高・養)	
6	23000030	総合教育実践プログラム	専攻必修科目	子ども理解と支援	02	2	浅部航太 米本和弘	特別支援教育および生徒指導に関する理解を深め、実態把握や支援方法について学んだことに基づいて、一人ひとりの実態に応じた支援方法について検討する。		○	月3		大学院アクティブ ラーニングスペース 1		(幼・小・中・高・養)	
7	23000030	総合教育実践プログラム	専攻必修科目	子ども理解と支援	03	2	米本和弘 浅部航太	特別支援教育および生徒指導に関する理解を深め、実態把握や支援方法について学んだことに基づいて、一人ひとりの実態に応じた支援方法について検討する。		○	月2		大学院アクティブ ラーニングスペース 3		(幼・小・中・高・養)	
8	23000030	総合教育実践プログラム	専攻必修科目	子ども理解と支援	04	2	米本和弘 浅部航太	特別支援教育および生徒指導に関する理解を深め、実態把握や支援方法について学んだことに基づいて、一人ひとりの実態に応じた支援方法について検討する。		○	月3		大学院アクティブ ラーニングスペース 4		(幼・小・中・高・養)	
9	23002220	総合教育実践プログラム	高度選択科目	人間形成と道徳教育の諸課題	01	2	劉博昊 浅部航太	心の教育や人間形成の視点から、子供の現状、歴史的視点、諸外国の現状や多様な道徳指導理論に触れ、柔軟な発想力を養う。		○	木5		東7号館 (教職大学院棟) 講義室1		(小・中・高・養)	
10	23003020	教科領域プログラム・ 国語教育サブプログラム	プログラム科目	国語科の実践演習 I	01	2	中村和弘 中村純子	国語科の授業に関し、実習先で参観した授業、自身が実習として実施した授業、他の教員による授業などから立ち上がる課題について、研究的視点をもって分析的に捉え、その課題の解決のための視点を育て、実践を構成する力を身につける。		○		水6	大学院アクティブ ラーニングスペース 3		(小・中(国)・高(国))	
11	23003120	教科領域プログラム・ 国語教育サブプログラム	高度選択科目	国語科の内容構成開発と実践B	01	2	篠崎祐介 斉藤昭子 足田雅昭 石村貴博 湯浅佳子 宮本淳子 中村純子 千田洋幸	国語科教育の内容構成・教材開発に関し、国文学、国語学等の領域で、授業設計、模擬授業を通して、授業のデザイン力を高める。		○	木2		中央6号館2階 国語第2演習室		(小・中(国)・高(国))	
12	23003130	教科領域プログラム・ 国語教育サブプログラム	高度選択科目	国語科の内容構成開発と実践C	01	2	千田洋幸 川上知里 伊藤かおり 長谷川真史 斉藤昭子 足田雅昭 中村和弘 大澤千恵子	国語科教育の内容構成・教材開発に関し、国文学、国語学、漢文学等の領域で、授業設計、模擬授業を通して、授業のデザイン力を高める。		○		金6	中央6号館2階 国語第2演習室		(小・中(国)・高(国))	
13	23003150	教科領域プログラム・ 国語教育サブプログラム	高度選択科目	国語科の高度研究開発法	01	2	中村和弘 奥泉香 中村純子	小・中・高校における国語科の全領域・日本語教育領域の研究論文の講読、執筆活動を通じ、研究デザイン力を育成することを目指す。		○		月6	大学院アクティブ ラーニングスペース 3		(小・中(国)・高(国))	
14	23003330	教科領域プログラム・ 社会科教育サブプログラム	高度選択科目	社会科の高度研究開発法	01	2	田中比呂志 青木久 渡部竜也 大澤克美	課題研究との関連を図りつつ、社会科教育実践における諸課題を検討し、個々に設定した課題への体験的な取り組みを通して、学術的な知見や必要な情報の入手と解釈、課題と研究方法の選択・設定など方法論の理解を深める。また、それに合わせて、研究の議論や評価、学術研究及び教育研究における倫理・人権問題に関わる意識を育む。		○		木4	大学院アクティブ ラーニングスペース 4		(小・中(社) ・高(地歴・公民))	
15	23003510	教科領域プログラム・ 数学教育サブプログラム	高度選択科目	算数・数学科タスクデザインA	01	2	清野辰彦 西村圭一 成田慎之介	幾何及び代数分野における教材や評価に焦点をあて、教材開発および評価問題の開発の方法を学修するとともに、実際に開発を行う。		○		木6	中央1号館 数学教育実習室 S316		(小・中(数)・高(数))	原則として修士論文相当の学術論文を作成する者を対象としている。また事前に試験を実施し、履修の可否を判断する。
16	23003520	教科領域プログラム・ 数学教育サブプログラム	高度選択科目	算数・数学科タスクデザインB	01	2	西村圭一 成田慎之介 小岩大	解析及び確率・統計分野における教材や評価に焦点をあて、教材開発および評価問題の開発の方法を学修するとともに、実際に開発を行う。		○		金4	中央1号館 数学教育実習室 S316		(小・中(数)・高(数))	原則として修士論文相当の学術論文を作成する者を対象としている。また事前に試験を実施し、履修の可否を判断する。

整理番号	授業コード	開設プログラムサブプログラム	科目区分	授業科目	クラス番号	単位数	担当教員	講義概要	開設		曜日・時限		開講情報		免許法「大学が独自に設定する科目」	備考
									春期	秋期	1～5限	6～7限	講義室等	集中方式		
17	23003550	教科領域プログラム・ 数学教育サブプログラム	高度選択科目	算数・数学科高度評価開発法	01	2	成田慎之介 西村圭一 清野辰彦 竹内伸子 田中心 山本卓宏 宮地淳一 長瀬潤 相原琢磨 中村光一 山ノ内毅彦 溝口紀子 小岩大 稲葉 寿 矢作由美 鈴木新太郎 嵐晃一	算数・数学科における評価問題の開発・設計の方法について学修する。修士論文相当の学術論文を作成するための科目であり、原則として修士論文相当の学術論文を作成する者を対象とする。		○		火6	中央1号館 数学教育実習室 S316	(小・中(数)・高(数))	原則として修士論文相当の学術論文を作成する者を対象としている。また事前に試験を実施し、履修の可否を判断する。	
18	23003710	教科領域プログラム・ 理科教育サブプログラム	高度選択科目	理科の内容構成開発と実践A	01	2	大室智史 荒川悦雄 植松晴子 小林晋平 松本益明 國仙久雄 小坂知己 フョグリ・W 前田優 山田道夫	小学校理科A区分、中学校理科第1分野及び高等学校理科物理・化学領域の内容と指導法の有機的連携を図る。		○		水6	中央1号館3階 理科第二実験室 (M307)	(小・中(理)・高(理))		
19	23003720	教科領域プログラム・ 理科教育サブプログラム	高度選択科目	理科の内容構成開発と実践B	01	2	西田尚央 狩野賢司 佐藤尚毅 高橋修 西浦慎悟 教員未定 湯浅智子 山元孝佳 中西 史 星野佑介	小学校理科B区分、中学校理科第2分野及び高等学校理科生物・地学領域の内容と指導法の有機的連携を図る。		○		金6	中央1号館3階 理科第二実験室 (M307)	(小・中(理)・高(理))		
20	23004130	教科領域プログラム・ 美術・工芸教育サブプログラム	高度選択科目	美術・工芸科の高度研究開発法	01	2	西村徳行 相田隆司 笠原広一	本授業は、美術・工作科における教育課題を追究するための基礎となる学術研究の成果について、最新の知見も踏まえて、教育課題に関する主題やテーマについて、具体的な課題を設定できるようにする。また課題に応じた適切な調査方法、研究法の選択、課題追究の在り方について、学校における教育実践に貢献する視点から研究開発法を学ぶ。受講者は美術・工芸科における教育実践に関する主題やテーマを追求するために、実践的な視点から研究開発法を学び、自らの課題に応じた適切な調査方法、研究法を選択することができる力を身につける。		○		月6	西5号館2階 美術科教育学 演習室	(小・中(美)・高(美・ 工芸))		
21	23004310	教科領域プログラム 書道教育サブプログラム	高度選択科目	書道科の内容構成開発と実践	01	2	草津祐介 城間圭太	書道教育に関する内容および方法に焦点を当て、歴史的文化的理解を深めながら書技法を習得し、教育目標に照らした再構築ができるか検討していく。		○		金4	西5号館2階 書道演習室	(高(書))		
22	23004320	教科領域プログラム 書道教育サブプログラム	高度選択科目	書写・書道における教材づくり	01	2	加藤泰弘 石井 健	国語科書写、芸術科書道に関する教育実践を参考にしながら、特に教材の作成法、実際の授業における活用法を考究する。		○		金1	西5号館2階 書道演習室	(小・中(国)・高(書))		
23	23004740	教科領域プログラム 技術教育サブプログラム	高度選択科目	ものづくり技術の内容構成開発と実践Ⅱ	01	2	大谷忠 江原遥	本授業はものづくり教育の教材・教育内容に関する協働的検討、ものづくり教育実践の課題設定、教育実践計画の立案と模擬授業の実施等を行う。		○		水3	大学院アクティブ ラーニングスペース 4	(小・中・高)		
24	23004760	教科領域プログラム 技術教育サブプログラム	高度選択科目	ものづくり技術の高度研究開発法	01	2	坂口謙一	本授業は、技術・職業教育学の立場から、主に、小・中・高の「ものづくり技術」に関する教育実践を対象とした研究の方法論を学ぶ。		○		木4	西5号館1階 技術教育授業ラボ ラトリー	(小・中・高)		
25	23004912	教科領域プログラム 家庭科教育サブプログラム	高度選択科目	家庭科の内容構成開発と実践B	01	2	倉持清美 塚崎舞 星野亜由美 萬羽郁子	家庭科の実験・実習系の授業を展開するうえで必要な知識と技能を身につけることを目的とする。		○		集中	西3号館501 (児童学実験自習 室)	(小・中(家)・高(家))	10/10, 10/17, 10/24, 11/7, 11/14, 11/21	
26	23004930	教科領域プログラム 家庭科教育サブプログラム	高度選択科目	家庭科における教材づくり	01	2	倉持清美 萬羽郁子 塚崎 舞 星野亜由美 赤塚麻子	生徒の発達段階に応じた家庭科の教材を作成する。その教材を使用した授業展開を考え、実際に模擬授業などで教材の効果について検討する。		○		水2	西3号館501 (児童学実験自習 室)	(小・中(家)・高(家))		
27	23005030	教科領域プログラム 英語教育サブプログラム	プログラム科目	英語科の実践演習Ⅱ	01	2	高山芳樹 粕谷恭子 馬場哲生	中・高等学校における授業の映像の視聴、指導案の検討、模擬授業を行うことを通して、授業を適切に評価・改善する力を身に付ける。		○		木5	大学院アクティブ ラーニングスペース 2	(小・中(英)・高(英))		
28	23005120	教科領域プログラム 英語教育サブプログラム	高度選択科目	英語科の内容構成開発と実践B	01	2	粕谷恭子 大田信良 斎木郁乃 鈴木猛 阿戸昌彦 阿部始子	各校種で扱う題材と連動する文学作品・映像作品を扱い、教材発掘、具体的指導法について検討し模擬授業を行う。		○		水1	大学院アクティブ ラーニングスペース 1	(小・中(英)・高(英))		
29	23005140	教科領域プログラム 英語教育サブプログラム	高度選択科目	英語科の授業と教材・タスクA	01	2	高山芳樹 白倉美里	領域ごとに設定されたテーマに沿ったタスクの設定・教材開発を協働で行い、討議を重ね模擬授業を行う。		○		木6	大学院アクティブ ラーニングスペース 1	(小・中(英)・高(英))		
30	23005550	教科領域プログラム 幼児教育サブプログラム	高度選択科目	運動遊びの環境と教材研究	01	2	吉田伊津美	運動遊びの意義の理解し、多様な動きを引き出すための発達に応じた教材の検討を模擬保育を通して行う		○		木5	中央6号館3階 幼児教育演習室	(幼)		
31	23005710	教科領域プログラム 養護教育サブプログラム	高度選択科目	学校保健の内容構成開発と実践A	01	2	竹鼻ゆかり 鈴木琴子	保健教育の課題と教師による指導について、理論と実践の往還を図りながら、課題解決をはかる。		○		月6	東1号館4階 養護学演習室1	(中(保健) ・高(保健)・養)		
32	23005730	教科領域プログラム 養護教育サブプログラム	高度選択科目	学校保健の高度研究開発法	01	2	榎 宏朗 鈴木琴子	学校保健に関する最新の知見を学ぶとともに、課題解決のための研究法の選択、研究結果のまとめ方について理解する。		○		月5	東1号館4階 養護学演習室1	(中(保健) ・高(保健)・養)		
33	23007130	教育プロジェクトプログラム 学校教育課題サブプログラム	高度選択科目	教育相談と教育臨床の理論と方法	01	2	小林玄 松山康成	教育臨床の視点から児童生徒の問題と背景要因を考察し、教育相談の内容や方法について習得を深め、問題のアセスメントや面接の技量を身に付ける。		○		木5	大学院アクティブ ラーニングスペース 3	(幼・小・中・高・養)		

整理番号	授業コード	開設プログラムサブプログラム	科目区分	授業科目	クラス番号	単位	担当教員	講義概要	開設		曜日・時限		開講情報		免許法「大学が独自に設定する科目」	備考
									春期	秋期	1～5限	6～7限	講義室等	集中方式		
34	23007730	教育プロジェクト 国際理解・外国人児童生徒教育サブプログラム	高度選択科目	国際理解教育の内容と方法B	01	2	見世千賀子 李修京	多様化する学校の国際理解教育で重視すべき概念である多文化共生、及び包摂性について、人権に関わる社会的事例や教育現場における市民性教育の実践事例などの分析・解釈を通して議論する。		○		木6	大学院アクティブラーニングスペース2		(幼・小・中・高・養)	
35	23007750	教育プロジェクト 国際理解・外国人児童生徒教育サブプログラム	高度選択科目	外国人児童生徒教育B	01	2	齋藤ひろみ 原瑞穂	外国人児童生徒教育Aの内容を踏まえつつ、外国人児童生徒教育に関し、「日本語教育」(教科と日本語の統合教育を含む)、「母語・母文化教育」(文化間移動をする子どもの)キャリア教育を取り上げる。その背景にある思想と方法論、また実践例などの検討と授業づくりなどの演習を通し、省察的に実践し、教育環境をデザインする実践的な力を高める。		○		金6	大学院アクティブラーニングスペース4		(幼・小・中・高・養)	
36	23007510	教育プロジェクトプログラム 環境教育サブプログラム	高度選択科目	環境教育の内容構成開発と実践	01	2	小柳知代 吉富友恭	自然を対象にした環境教育実践プログラムを作成・実践・評価する。		○		水6	西7号館(環境教育研究センター) 会議室		(小・中・高)	
37	23007540	教育プロジェクトプログラム 環境教育サブプログラム	高度選択科目	環境教育における教材づくり	01	2	吉富友恭 小柳知代	環境教育の授業で活用できる教具や教材を企画・開発する。		○	水1		西7号館(環境教育研究センター) 会議室		(小・中・高)	
38	23007550	教育プロジェクトプログラム 環境教育サブプログラム	高度選択科目	環境教育フィールドスタディ	01	2	原子栄一郎 茜谷佳世子	座学とフィールドスタディを交えて環境教育実践に関する理解を深める。「環境教育実践原論」を履修していること		○	木3		西7号館(環境教育研究センター) 会議室		(小・中・高)	受講希望者との相談の上、可能な場合には宿泊を伴うフィールドスタディを実施する予定。